

令和5年度 事業活動報告

概況

法人設立から9年目を迎えた。初めの事業は、“南アルプス学概論”講座の開設からスタートし「知の普及」に務めたが、次第に社会的課題が「環境保全活動」に絞られてきて、ここ数年は市街地に隣接する里山の竹林伐採、跡地の広葉樹の植樹による森づくりという復元的「価値の創造」に集中している。

かつて、群馬での広葉樹の森づくりに約20年を要した経験が今生かされている。

これまでの活動実績から、

- 1) 【静岡森づくり貢献証】最高位マスタータイプを、最近4年間連続して県知事から受けた。静岡市では我々のみ。県下では9NPO法人がある。
- 2) また、民間の助成金や静岡県の外郭団体へ申請すれば、認可される可能性は増えているが、作業手当を認めてくれる財団は殆んどない。従って助成金は増えても作業手当に使える資金は増えないので、動員数に限りがあることから事業規模を余り大きくはできない。継続事業を実に実施できる運営体制の確立が先決と考えている。

そこで、法人が作業手当に自由に使える費用を確保する必要があり、賛助寄付集めをより広範囲に行うなどの努力をしなければならない。最後に、ふじのくに未来財団の助成は、作業手当を認可してくれる唯一の財団と言える。我々には重要な財団である。

理事長の年齢を考えると、世代交代の時期でもあると認識している。

1. 助成事業

- 1) 静岡市放任竹林整備事業補助（現物支給）
令和5年度、第1回放任竹林対策連絡会議開催（4月11日）山本、大島が出席。消耗品支給変更通知があり、刈払機用替刃（230mm）、チェーンソー用替刃等が追加となり、6月下旬、10万円相当の現物支給を受けた。

- 2) 公益財団法人静岡県グリーンバンク補助金
「森づくりグループ活動支援事業」として（25万円）。
瀬名地区川合山での竹林伐採、跡地に広葉樹を植樹する事業。川合山の地籍（川合長仏谷1640、1641番、500㎡）が対象地。展望台と中部電力鉄塔に隣接する竹林伐採は6月に開始し、本格的な伐採・整理は10月、11月、12月の3ヶ月間に随時実施した。
25年1月、竹の根元をチェーンソーで切断し、地拵え、3月17日にポット苗、植林苗、根巻き苗を植栽した。
根巻き苗：もみじ10本、欒10本、白欒10本は頂上部周辺に植え、その間にヤブツバキを配置し、ハイカーを楽しませる等の工夫をした。（写真3枚）

- 3) 三菱UFJ環境財団、苗木寄贈事業
苗木代を寄贈いただく助成事業（30万円）。
流通センターの森事業が中止となったので、4月に取り下げ、別に適地を見つけて、6月に再申請、9月認可ということで、財団事務局と相談済みであった。
鹿柵不要の場所を探していたが、5月9日県の中部農林事務所森林整備課からの提案（県有林有度山北麓里山林再生ゾーン域内、谷田地区の竹林帯の森づくり）を受けて、現地偵察の結果、良好な土地であることを確認し、当地での森づくり申請書を森林整備課へ提出し、「県有地における里山保全活動に関する協定書」を6月1日付けで締結した。
苗木寄贈事業に格好の土地が見つかったと言える。
県には3年間の継続事業を希望した。9月から竹林伐採を開始し、跡地に潜在植生の広葉樹苗8種類（タブノキ、スダジイ、白欒、粗欒、赤欒、藪椿、シロダモ、モチノキ等）

700本を植樹した。将来立派な広葉樹の森となるだろう。
(写真2枚)

- 4) 公益信託しずぎんふるさと環境保全基金助成認可(10万円)。この額では独立した事業展開はできないので、上記の三菱UFJ環境財団の苗木寄贈助成と合算した。
窓口業務は三菱UFJ信託銀行のリテール受託業務部(公益信託課)。

- 5) ふじのくに未来財団、団体指定助成(24万円)
(4月末申請、5月12日認可)。本来の助成事業ではない。財団に残る寄付残額(35万円余)の未収金回収計画であるが、選考委員会に掛かる。当財団助成金はスタッフの作業手当を認可しているので、川合山竹林伐採・植樹等、や藁科川左岸大平見での下草刈り作業等に適応することとし、動員数は120人前後を想定した。

- 6) イオン環境財団:「里山水源の森復元事業」12月認可。
助成金107万円:植樹は来期5月11日実施。
興津川支流の里山、貝伏山水源地の伐採跡地の植林放棄地が気になり、里山 commons の再生事業に申請していた。
鹿防護柵さえ設置できれば、水源地の森の復元が可能な事業で、場所は清水区西里地区の里山:貝伏山(標高458m、かいぶしやまと読む)、その昔甲斐の武士が移り住んだという貝伏集落の源頭にある山で、貝を伏せたようななだらかな里山である。そこの水源地の針葉樹伐採跡地(0.5ha)に鹿防護柵を設置し、静岡の潜在植生樹8種類800本を植樹し、水源の森に復元させる計画である。隣接する水路に台風15号でも流されなかった地区唯一のワサビ田がある。(合成写真1枚)
植樹は25年5月の予定であるが、それまでの必須作業として、地拵がある。当地は地主が“もう植林しない”だったので、森林組合が荒っぽい伐採をして沢山の残枝を現場に残した土地だった。その残枝処理に当期予想以上の15万円程度の費用を要した。

2. 独自事業

- 1) 藁科川中流左岸、坂の上 大平見（標高750m）植林地
総面積3ha、5000本の下草刈り。静岡県のプロジェクトである、春2回、秋2回の森づくり大作戦に参加登録。
当参加登録証がないと、グリーンバンクの補助金申請ができない仕組みになっている。
費用は、ふじのくに未来財団の未収金回収金を当てる。

基本的に、下草刈りは重労働の上、暑い時期に重なるのでボランティアを集め難いが、大平見は空が広く川根の山々まで見渡せる眺望絶景で気分の良い場所である。
初期の植林から8年目となり、コナラ、栗は順調に生育して、背丈を超えるまでに成長したが、1昨年植林したばかりの苗木の下草刈りはここ3年間には必要だ。
5月27日の草刈り大作戦で確認した処、一部のコナラはよく育っている。一方、自然更新のヒノキとスギの成長は順調で、針広混合林ができつつある。下草刈りの影響も考えられ、植林初期の徹底した下草刈りは避けた方が良さそうな感触にある。どの程度が望ましいのか検討の要あり。

- 2) 川根ネイチャーガイド養成樹木学講座（川根本町山犬段への道路脇で実施）：（道路事情により来期に延期する）。
講師：静岡大准教授 飯尾淳弘
日時：2024年5月18日（土）実施
内容：川根の代表的な樹木につき現場で解説説明
募集：20人（参加者14名）
費用：3000円×14＝42,000（講師謝礼）
テキスト：講師準備。

3. 【静岡県森づくり貢献証】受証。森づくりの実績が認められ、4年連続、最高位：マスタークラスを県知事から受けた。

以上